
ミキ

ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミキ

【Nコード】

N4640U

【作者名】

ユウ

【あらすじ】

リョウの友人、コウスケはとある女子学生に告白された、のだが――。

「えっ……今、何て？」

そこには二人の男子学生と、一人の女子学生がいる。

一人はコウスケ。もう一人はリヨウ。どうやらコウスケが、女子学生に告白されたらしい。

「おいっ、コウスケ！ 随分と可愛い子じゃないか。付き合っちゃまえよっ」

「いや、でも……俺達、初対面だし、それに名前もわからないんだぜ？」

「っつんだよ、そんな事かよ！ 羨ましい野郎だぜ、ったくよ。——
ねえ、君、名前は何ていうの？」

リヨウが女子学生に尋ねる。

俯いて顔が見えない。だがはつきりと女子学生は応える。

「ミキです」

「ミキちゃんだってよ、コウスケ！ じゃあ、俺は先に帰るから、後は二人で好きにしるよ！」

リヨウは、コウスケの背中を強く叩くと、そそくさと早足で歩いていく。

振り返る事なく歩いた。二人に気を遣つての事でもある。または敗北感の誤魔化しでもある。

「ちくしょー！ 俺も彼女ほしいなあっ」

——だがその日から、コウスケの姿を見る事はなかった。

一日、二日、一週間、コウスケは学校にも姿を現す事がない。

「なあ、お前等もコウスケ見ないのか!？」

リヨウは学校の知り合いに聞き回る。それでも返ってくる答えは——。

「はあ？ あいつと一番仲が良かったお前が知らねえのに、何で俺達が知ってるんだよ」

という答えだけだった。コウスケはどこに消えてしまったのか。

「それよりさ、俺達と夏の会談話大会でもやろうぜ！ コウスケは適当に出てくんだろ？」

「馬鹿野郎！ もう一週間以上も行方不明なんだぞ、何でそんな悠長な事を言つてやがんだ！」

「お前こそ何をそんなに切羽詰まってるんだよ。いいから試しに一つ話を聞いてくれよ——」

リヨウの友人は呑気に怪談話を始める。異常だ、一週間も友人が行

方不明なのに、誰も何も言わないなんて。

「——っていうのが、女子学生ミキの怪談話だよ」

「えっ……！？」

聞き覚えのある言葉がリョウの耳に入る。確かコウスケに告白してきた女子学生の名は——。

「——ミキ」

「そう、だからミキの会談だって！」

「もう一回……聞かせてくれないか？」

「何だよ、ちゃんと聞いておけよ！ 少し端折るぞ。——昔、ミキっていう女子学生がいて、凄く可愛い子だったらしい。ある時、ミキは男子学生に告白されたんだが、ミキはその告白を拒否したらしい。でも男子学生は拒否された事に逆ギレしたらしくて、ミキを暴行した挙げ句、殺してしまったらしい。それ以来、ミキは怨霊となつて、自分を殺した男子学生を捜してるらしいな」

リョウは絶句した。偶然的にも、コウスケに告白してきた女子学生の名前はミキ。そしてそれ以来、コウスケは姿を消した。

「だがミキは、暴行を受けた際に目を怪我したらしくてな。ほとんど視界がわからないらしい。だから当てずっぽうに男子学生に告白をして、捕まえて殺していつてるらしいぞ」

「そ、そんな……」

嫌な予感、どころの感覚ではない。嫌な汗までかいてくる。

リヨウは走り出した。向かう先は最後にコウスケと別れた、ミキに告白された、あの場所だ。

そしてそこに着くと、それはあつた。

「コウスケ……」

身体中に暴行された形跡があつた。一目で死んでると思った。至る箇所には惨すぎる傷痕がある。

中でも最も惨いのは、両目が潰されている事だ。

——そして、聞いた事のある声が後ろから聞こえた。

「あの……リヨウさん、ですね。私と、付き合ってください」

「……ミキ」

目が潰され、血の涙を流した彼女は——静かに微笑んでいた。

（後書き）

紅夏君とこの「怖い話・盲目の女」を大分参考にさせてもらっています。

出来上がってみると、なんかパクr…（ry
まあ、気にしないでいきましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4640u/>

ミキ

2011年11月15日07時42分発行